

ゆのはな

すべての人が地域で幸せに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

VOL.2
2016. 2. 1
BRCだより

まなぼう！

回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリ
テーション病棟では

患者さんお一人お一人の状態に合わせて
多職種スタッフ全員で支援いたします。



回復期リハビリテーション病棟のとりくみ

入院



合同面接

医師・担当スタッフ全員で、現在の状態や患者さん・ご家族のご希望を確認し、患者さんに応じたリハビリテーション計画を作成します。

入院中



リハビリテーション

作成した計画に沿ってリハビリテーションを行っていきます。入院期間は急性期の病院と比べて長くなります。心身ともに安定した状態でリハビリテーションを行うことができるように、体調の管理やご家族も含めた精神的なサポートも行います。



カンファレンス

入院中は、患者さんの状態に応じてリハビリテーション計画の見直しを行います。また、定期的に患者さん・ご家族と話し合いの場を持ち、退院に向けて支援します。

退院にむけて



生活環境調査

入院中に担当スタッフが患者さんの退院先へ伺い、住宅改修や介護方法を提案します。



社会福祉資源のご紹介

担当の社会福祉士が介護保険等をはじめ、様々な社会福祉資源をご紹介します。



サービス担当者会議

安心して退院していただけるように、ご家族や退院後の生活を支援する施設の方やケアマネージャーなどと話し合いの場を持ちます。

退院後



当センターは、外来・通所・訪問での継続したリハビリテーションを行っています。患者さん・ご家族のご様子を知るために、ご自宅をお伺いする場合があります。

回復期リハビリテーション病棟 の目的は・・・

「命の危機を脱してもまだ医学的・精神的サポートが必要な時期の方を対象に受け入れ、多くの医療専門職がチームを組んで集中したリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻っていただくこと」

別府リハビリテーションセンターは わたしたちの理念である

「すべての人が地域で幸せに生活できる社会の実現」 を目指し取り組んでいきます。

頑張ってます
回復期!

自動車運転再開に向けた回復期病棟での取り組み

ドライビングサポートワーキンググループ

自動車の運転は、通勤や買い物など私たちの生活にとって大切な移動手段の一つです。しかし、脳卒中や脳外傷などによる身体の麻痺や高次脳機能障がいのある方々は、自動車運転を再開する際に、政令で定める病気の状況について（表1）医師の診断書を求められます。そこで、当センター回復期病棟では運転の再開に必要な能力の評価を行っています。

一次評価では適正検査、神経心理学的検査（注意力、記憶力、遂行機能、視空間能力）、自動車運転簡易シミュレーター、日常生活場面を評価します。二次評価では当センター敷地内にある運転コースでの実車評価をします。各評価ごとに次の評価へ進めるかについて、担当チームが協議します。二次評価を通過し、安全な運転が可能であると判断された場合には医師が診断書を作成します。最終的には、運転免許センターでの臨時適正検査を受け、その結果により運転再開の可否が決定されます。（表2）

評価結果により、現段階では自動車運転を控えるべきだと判断された場合は、退院後に外来での再評価を受けることも可能です。

当センターでは入院中の皆様がより充実した生活を送ることが出来るように今後も取り組んでまいります。

※ なお、自動車運転再開に向けての支援は、当センター回復期病棟に入院中の方に限らせていただいております。

政令で定める病気 (道路交通法施行令第三十三条の二の三)

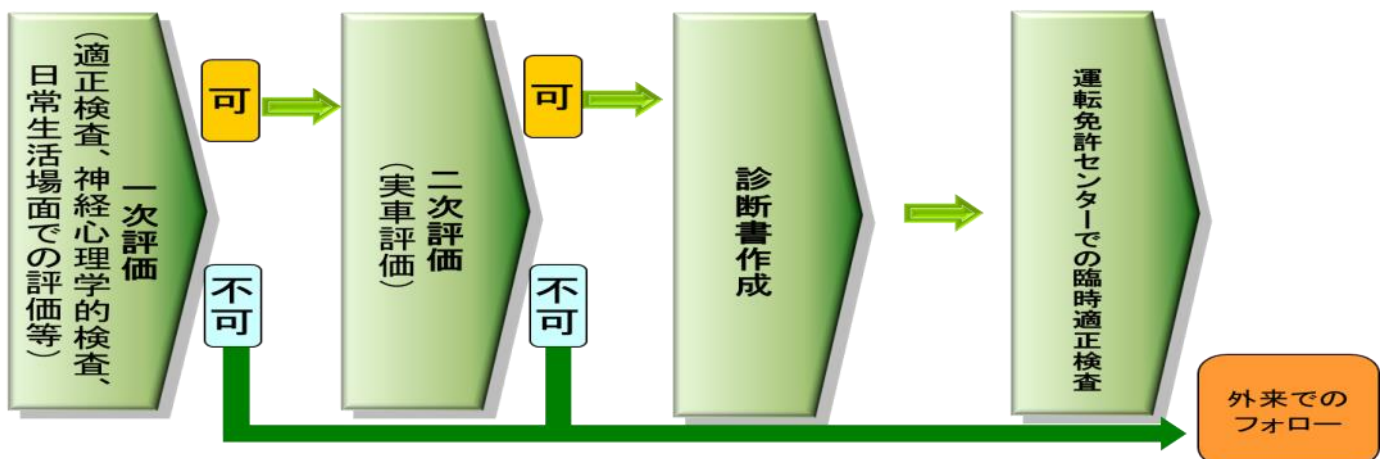
- ・統合失調症
- ・てんかん
- ・再発性の失神
- ・無自覚性の低血糖症
- ・そううつ病
- ・重度の睡眠障害
- ・自動車等の安全な運転に必要な認知、予測、判断又は操作のいずれかに係る能力を欠くこととなるおそれがある症状

(表1)



(運転コース)

自動車運転再開に向けた評価システム



(表2)

頑張ってます
回復期！

在宅復帰支援の取り組み

回復期リハビリテーション部 在宅復帰支援委員会

当センターでは、退院後も住み慣れた地域で安心して生活して頂くことを目的に、入院早期から、多職種協働によるチームアプローチを行っています。また、在宅復帰支援委員会を設置し、チームアプローチや在宅復帰支援がより円滑に進むことを目的に活動しています。以下に、在宅復帰支援の取り組みの一部をご紹介します。

【多職種での生活環境調査の実施】

入院中に療法士や看護師・介護福祉士が患者さんのご自宅を訪問させていただきます。家屋内や家屋周辺の状況を確認し、リハビリテーションに活かします。療法士だけでなく、看護師・介護福祉士も同行することで入院中の生活から、在宅生活を見据えた支援を行います。必要に応じ、福祉用具や住宅改修の情報提供も行います。

【ご家族・支援者との連携】

リハビリテーションは、ご本人だけでなく、ご家族や支援者との連携が重要です。ご本人・ご家族・周りの支援者との生活を想像し、より具体的に目標を設定します。そして、どのような方法・環境で行うのかを共有し、一緒に取り組めるように努めています。また、日曜のリハビリテーションや家族教室を開催し、ご家族との情報交換の機会を増やしています。

家族教室の様子

「熱中症、夏バテ対策」
「介護保険・サービスについて」
「失禁対策、骨盤底筋体操」
その他多数



自宅での動作を練習できるADL訓練室

【退院後訪問調査の実施】

退院後にもチームでご自宅に訪問させていただくことがあります。入院中は、退院後の生活の幅が広がっていくよう支援させていただいています。その後、実際にどのように生活されているのかを見て、聴いて、入院中の関わりの中で、どのような観点が不足していたのか、更にどのような取り組みができるのかを振り返っています。この取り組みは、私たちの自己研鑽でもありますが、皆様が実際に地域で生活している姿を見られる嬉しい機会でもあります。

私たちは、皆さまの個性を大切に、幸せな生活を送れるよう、お手伝いできればと考えています。いつでも、お気軽にご相談ください。

クリスマス バイキング

平成27年12月25日昼食時、毎年恒例となっている「クリスマスバイキング」を開催しました。お膳の食事のほかに、当センター名物のツリーサラダやから揚げ、にぎり寿司など10品目以上の料理を中央テーブルにならべ、この日ばかりは患者さんが選んだ料理を好きだけ堪能していただきました。

「から揚げが食べた〜い」「私はお寿司がいい」などの声が聞かれ、笑顔に包まれた素敵なクリスマスとなりました。



＜A棟患者さんの感想＞
予想以上にゴージャスで目が飛び出たよ！！
40代男性

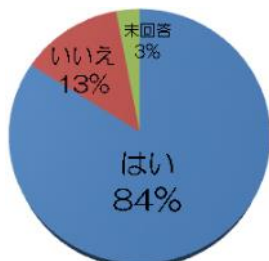
＜B棟患者さんの感想＞
ぶりの刺身が超おいしかったのでその後の訓練に精ができました！またこのような取り組みを行って欲しいです。
40代男性

B棟カフェ スタッフアンケート実施しました

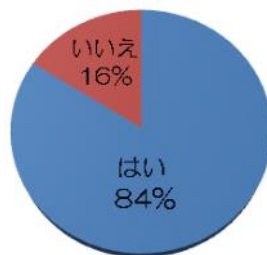


今年度、B病棟では「B棟カフェ」を開催し、患者さんにとっても好評をいただきました。このたびは次年度の病棟レクリエーション活動に繋げるため、病棟スタッフを対象にアンケートを行いました。

Q1 テーブルにある季節感のある小物等は役にたちましたか？



Q2 B棟カフェを行うことで患者さんとの会話、話題等に変化はありましたか？



Q3 よろしければ患者さんの声や会話の内容を教えてください

「コーヒーの香りがいいなあ。またリハビリが頑張れそうや。」

「家に居るみたいな気持ちになった。久しぶりにおいしいコーヒーを飲んだ。毎週、開いて欲しい。」

患者さんとのコミュニケーションを深める良い機会になっただけでなく、患者さんからも大変喜ばれているようです。今後も回復期病棟では、患者さんがほっこり笑顔で過ごせるひと時を提供できるよう、日々レクリエーション活動を企画していきます。



各施設のご案内

- ◇ 病 院
- ◇ 障 害 者 支 援 施 設 < に じ >
- ◇ 相 談 支 援 事 業
- ◇ 障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 所 < み の り >
- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < ふ れ あ い >
- ◇ み ょ う ば ん ク リ ニ ッ ク
- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < み ょ う ば ん >
- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < あ お そ ら >

編 集 後 記

最近のマラソン人口には驚かされるものがあります。京都・大阪大会とエントリーしましたが、思いが叶わず、走ることが出来ない現状でした。完走した時の感動と達成感をもう一度体感たく心と体を鍛えている日々を過ごしています。

(ケメ子)

発行： 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設



〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10

TEL0977-67-1711 FAX0977-67-1712 <http://www.brc.or.jp>

製作：回復期リハビリテーション部 広報誌担当